

令和元年度 前期 南中学校学校評価資料

9月作成

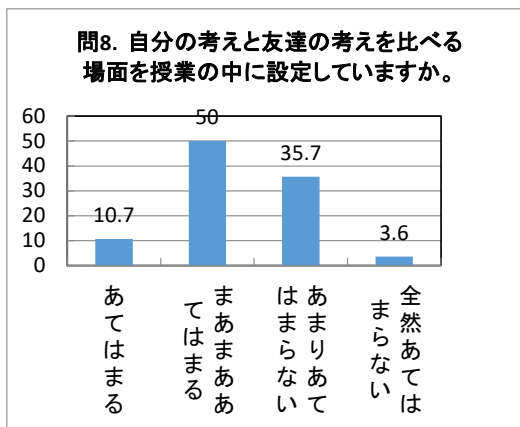
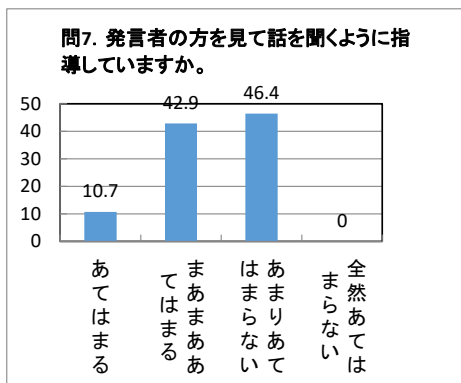
中期目標 a 「授業力向上」について
 ○短期経営目標 ☆本年度新たな取組 ◇取組状況 ※成果 ●課題

評 価

○生徒目線に立った「南中学習スタンダード」を定着させ、「聞く力」を伸長することで、「学び合い」の質を高める。

方策1 南中学習スタンダードを意識した授業実践に計画的に取り組み、「聞く力」に重点を置いて授業実践を振り返る。

①教師アンケートの結果



アンケート結果
 (はい、概ねの合計値)
 A: 80%以上
 B: 70%以上
 C: 60%以上
 D: 59%未満

●南中学習スタンダードの中でも「聞く」ことを重点に掲げているが、実践状況は芳しくないことがアンケート結果からうかがわれる。これまで「話す」ことについては、話型の指導について実践の積み重ねがあり比較的指導がしやすかったが、「聞く」についてはそれがなため、試行錯誤の状況にあるともいえる。授業の中に自分と仲間の考えを比べて聞く場面をどのように設定するかについて研修等を行い、教師の力量向上を高めることから始める必要がある

②生徒アンケートの結果

問 7. 考えを伝え合う場面で友だちが考えを発表するときは、友だちの方を見て発言を聞いていますか。

あてはまる	35.7%
まあまああてはまる	46.4%
合 計	82.1%

問 8. 考えを伝え合う場面では、友だちの発言と自分の考えを比べて聞いていますか。

あてはまる	31.7%
まあまああてはまる	39.4%
合 計	70.1%

アンケート結果
 (はい、概ねの合計値)
 A: 80%以上
 B: 70%以上
 C: 60%以上
 D: 59%未満

●「聞く」ことについての意識については、教師との差が大きいことがうかがえる。このことは、教師が意識して指導していけば、生徒の意識、聞く技能が伸びる余地が大きいことを示唆しているともいえる。このことを念頭において、今後指導内容、方法を考えていく。

③授業参観シートの集計結果

評 価 内 容	Aの割合 (%)
南中学習スタンダードが身につくよう、適切な指導をしているか	30.8
互いにかかわり合ったり、学びあったりする工夫があったか	53.8
学習内容に応じた学習形態を工夫していたか	61.5

教師の相互評価
 A: A評価70%以上
 B: A評価50%以上

●教師アンケートの問8では、自分の考えと友達の考えを比べる場面を設定していると回答した教員の割合が低いことがうかがえる。授業参観シートの他教員からの評価においても、授業内でかかわり合いや学び合いの点でAの割合は高くない。「聞く」という視点で、授業の形態や内容、方法についていっそうの工夫をしていく必要があるといえる。

方策2 主題研の4部会毎に「学び合い」の視点で主題に沿った単元を構想し、授業実践する。

◇主題研全体授業 7月8日(月) 工藤諒也教諭 3年6組 国語「言葉を見つめる『俳句の可能性』」
 全体会講師 刈谷南中学校 中村友二教諭(刈谷市教科指導員)
 今後の予定 11月 清水和也教諭 理科 12月 浜田真衣教諭 音楽

◇公開授業 5月～7月 14本 実施
 9月～12月 32本 実施予定

◇昨年度までは教科部会を中心に授業を考えてきたが、若手教員の増加、教科間の人数のばらつきがあり、取組に差が生じていた。そこで、本年度は、複数の教科を組み合わせて部会を構成し、専門教科の枠にとらわれない視点での意見交流や中堅教員による指導的役割が発揮できるようにした。
 ※4部会・・・国語・保健体育・美術/社会・数学・音楽/理科・技家・英語/道徳
 4部会の長を中堅教員にしたことで、授業者が授業作りについて気軽に相談できる雰囲気ができつつある。現在までのところ、体制が十分に確立して機能しているとはいえないが、今後、部会単位での取組を継続して進めることで成果を期待したい。

方策3 授業参観者用シート、「授業だより、授業メモ」で南中のめざす授業を示し、相互参観・執筆を通じて授業力を高める。

◇「授業だより、授業メモ」の取組は定着しており、「南中学習スタンダード」を視点に授業を分析的に見ることができている。昨年度までの「授業だより」執筆は主任などのベテラン教員が担ってきたが、授業を見る力の向上は、授業力の向上につながると考え、本年度からは1・2・3年目の教員3名にも執筆を割り当てた。7月までに1名の教員が執筆を終えたが、参観する授業の前後に教務主任がサポートを行い、よい研修の機会となった。【資料1 池谷教諭執筆の「授業だより」】

方策4 目指す生徒像を教員と生徒が共有して授業に臨むことができるように、「手引き」を作成して浸透を図る。

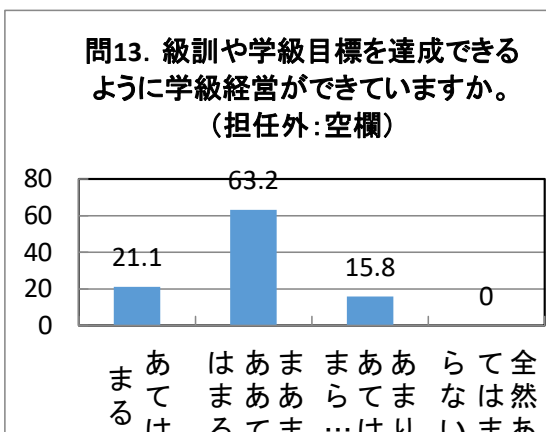
◇令和3年度の研究発表を見据え、研究主題に合わせて目指す生徒像を確立し、その実現に向けた取り組みを進めていく。教員間で目指す生徒像を共有することはもちろんのこと、生徒に「どんな生徒に育てほしいのか」を示し、その意味と価値を理解させることは、研究を進める上でプラスになると考える。そこで、9月の授業公開からは、主に役職者が執筆する「授業メモ」を生徒向けの内容にする。授業で見られた生徒のよい姿を中心に、全校に広めたいことを掲載し、生徒に配布することによって上記のねらいに迫れるようにする。【資料2 教頭執筆の「窓」】

○級訓を核とした学級経営を行い、一人一人の個性を生かしながら、帰属意識、高い有用感を感じられる学級集団を形成する

方策1 級訓を核とした学級の「仲間づくり」の様子と経過を、学級掲示に反映する。

方策2 応援合戦、合唱コンクールをはじめ、学校生活全般において級訓を意識した取組、振り返り、評価を行う。

①教師アンケートの結果



②生徒アンケートの結果

問13. あなたは、学級の「級訓」「目標」を意識して生活できていますか。

あてはまる	33.5%
まあまああてはまる	52.8%
合計	86.3%

教師・生徒アンケート

「あてはまる」「まあまああてはまる」の割合

A: 80%以上

B: 70%以上

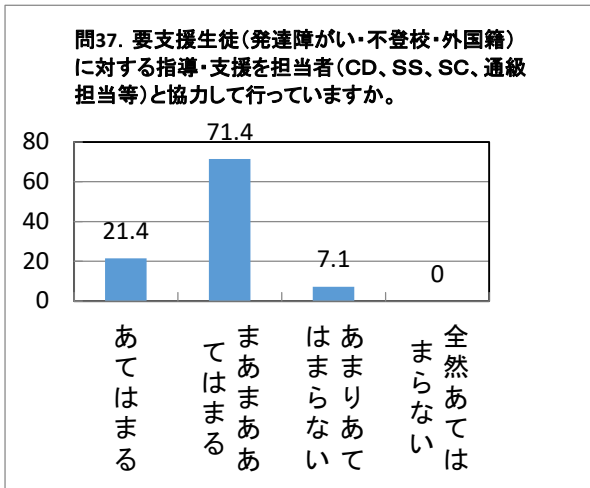
◇体育大会後の振り返りでは、級訓（学級目標）を意識したものが見られた。1年生の振り返りシートには、「学級目標（ ）と照らし合わせて」の項目があり、1年4組の生徒は自クラスの学級目標「鳳凰」を踏まえて、以下のように記述していた。

・僕の中では、鳳凰のようにたくさんの仲間と一つになれたと思います（心一つにできた）。なので、次は南中祭で歌う「涙をこらえて」をしっかりと、心一つに頑張りたいです。
注:「鳳凰」は、たくさんの動物が合体してできたもの

◇「仲間づくり」の様子と経過を反映した学級掲示については、全学級で実施できている。アンケートの結果は教師、生徒間の意識の差は小さい。体育大会、南中祭、2年生スキー合宿を通じて、この意識がさらに向上するような取り組みを進めていく。

方策3 不登校生徒の現状と指導方針を共有し、学校復帰、学級復帰に向けた支援をみなみ部会を中心に組織的に展開する。

①教師アンケートの結果



②生徒アンケートの結果

問 16. あなたの学級は、生活しやすいですか。

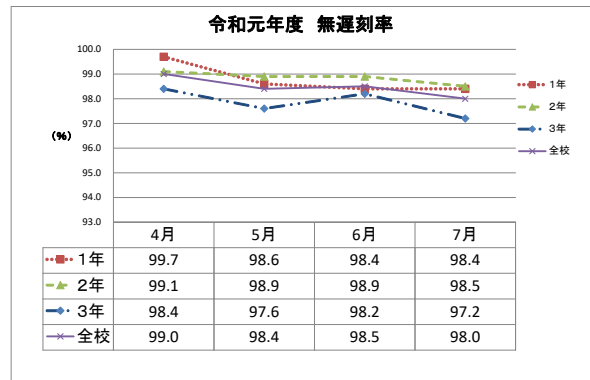
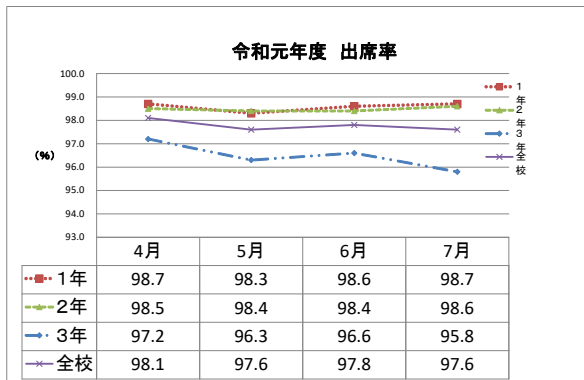
あてはまる	47.8%
まあまああてはまる	37.4%
合計	85.2%

教師・生徒アンケート

「あてはまる」「まあまああてはまる」の割合

- A: 80%以上
- B: 70%以上

③令和元年度4月～7月までの欠席率・無遅刻率



出席率・無遅刻率 A: 98パーセント以上 B: 97%以上 C: 96%以上 D: 96%未満

◇4月～7月 出席率 97.7% (97.1%) 無遅刻率 98.4% (98.1%) (昨年同期)

◇不登校の状況と対応

昨年度、病気以外の理由で30日以上欠席し、教育委員会に報告した生徒のうち、引き続き不登校傾向にあると認められる生徒の内訳は以下の通りである。

1年生・・・5名 2年生・・・3名 3年生・・・12名 合計20名

※生徒数598名に対する割合 3.3% (年度途中の数値であることに注意)

これらの生徒に対しては、みなみ部会部会（不登校対策の校内組織）で対応と対策を話し合うとともに、担任を中心に家庭訪問、電話連絡を密に行い、本人・保護者との関係を築きながら登校に向けた働きかけを継続して行っている。

現在、みなみ教室（不登校生徒適応教室）には、3年生3名、2年生3名が登録されているが、特に3年生については、担当教員のきめ細やかな指導・支援により、教室復帰に向けて着実に前進している様子が見える。

☆特別な支援を要する生徒への支援・指導体制の確立・充実

方策1 通級指導のあり方を研究し、南中学校にふさわしい通級指導体制を確立する。

◇本年度からスタートした通級指導教室は、調査、本人および保護者との相談、市内の通級教室見学等の準備・研究期間を経て、9月から本格的にスタートした。現在、1年生1名、2年生1名、3年生2名が通級指導を受けている。一人一人の困り感に寄り添いながら、適性に応じた指導を展開することで、該当生徒の安定に効果を上げつつある。

方策2 外国籍生徒の現状を把握し、市通訳、SSを活用しながら困り感にきめ細やかに対応する。

◇本年度は、4月からポルトガル語を母語とする生徒の日本語、および生活支援を担当するSS（スクールサポーター）を任用した。週3日の勤務で1年生から3年生までの4名（スタート時は5名だったが、1名転出）を1名あたり2～4時間指導している。日本語の基礎の指導のみならず、学校生活全般にわたって学校・担任・教科担任と生徒とをつなぐ貴重な存在となっている。また、給食時には会食を行い、母語を使っの生徒同士の交流が気兼ねなく行えるように配慮している。
9月からは新たに中国語ができるSSを任用し、3年生の中国籍生徒1名の支援に当たれる体制を整えた。今後、3年生は本格的な進路選択の時期を迎えるが、生徒のニーズに最大限応えられるような対応を継続していく。

○「生徒自治」の精神を継承し、リーダーを中心に生徒主体で計画・運営・評価しながら活動できる機会と場を保障する

方策1 外部団体、小学校と連携したリーダー研修会を運営し、部長会へつなげる。

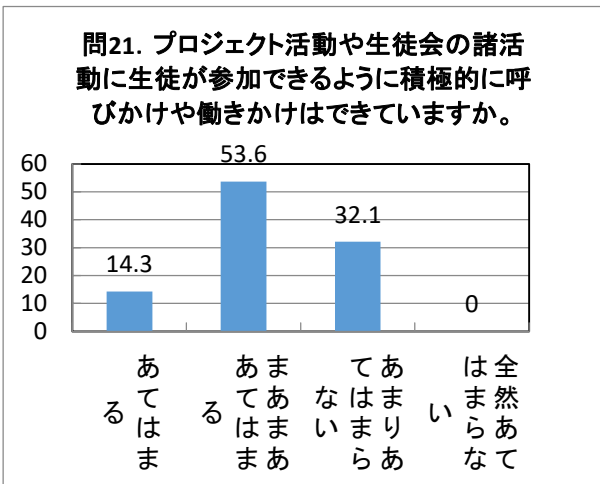
◇8月21日、22日の2日間にわたり愛知県青年の家において、2年生の生徒会役員、室長、部活動正副キャプテンら38名が参加してリーダー研修会を実施した。また、2日目には校区内3小学校より各8名計24名が合流し、中学生と一緒に研修に参加した。本年度も、本研修の趣旨に賛同いただいた高取まちづくり協議会、南部まちづくり協議会、高浜ロータリークラブよりご寄附をいただき、NPO法人アスクネットの協力のもと実施することができた。本研修では、目的である「仲間と関わりながら様々な活動を推し進めることができる『実行する力』をもったリーダーの育成」を意識しながら、5つのワークに取り組みリーダーとしての資質や自覚を高めることができた。以下に参加した児童の感想を載せる。

<小学校でリーダーとして大切にしたいこと>

- ・みんなで意見を出し合う中で、自分の思ったことをたくさんいうのも大事だけど、他の子の意見をしっかり聴いてリーダーとしてまとめたい。
- ・委員会の時やクラスの話し合いでは、「見通す力」「現状を把握する力」を大切にしたい。「見通す力」がないと、先のことを考えずに話を進めてしまうから大切にしたい。
- ・今まで気づけなかった「現状を把握する力」のことがわかった。この力を使ったらもっとよいリーダーに近づけると思う。

方策2 生徒議会・生徒総会を実施させ、室長会や委員会の生徒と生徒会役員の連携を図る取組を取り入れる。

①教師アンケートの結果



②生徒アンケートの結果

問 21. プロジェクト活動（スタッフ活動）や有志の活動に参加しよう、参加したいという気持ちはありますか。

あてはまる	22.5%
まあまああてはまる	34.5%
合計	57.0%

教師・生徒アンケート

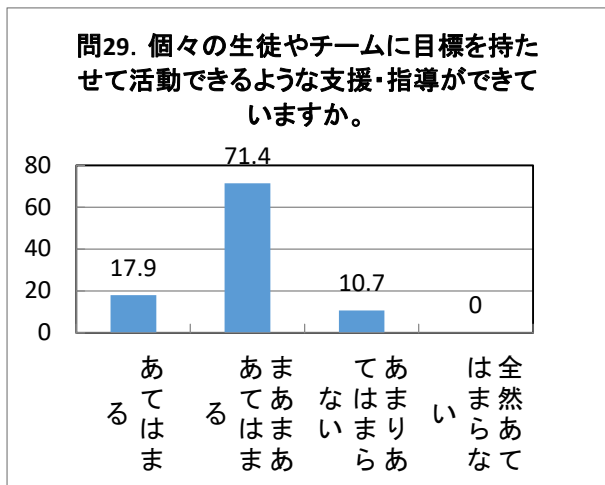
「あてはまる」「まあまああてはまる」の割合

- A: 80%以上
- B: 70%以上
- C: 60%以上**

※生徒会活動については、常時活動としての委員会活動がやや低調になってきているという観点から、生徒会担当から本年度のプロジェクト活動は、有志ではなく委員会が主体となって行うことが提案された。そのため、今後行われる南中祭では、プロジェクト活動は実施されない。この内容でのアンケートでは検証できなくなるが、生徒会の新たな取り組みが委員会の活動においてどのような効果を生むか見守っていきたいと考える。

方策3 「ファシリテーション」の技能を生かし、生徒の自治活動やグループ活動の支援に生かす。

①教師アンケートの結果



②生徒アンケートの結果

問 29. 自分やチーム（部活動）の目標を持って活動していますか。

あてはまる	59.1%
まあまああてはまる	27.0%
合計	86.1%

教師・生徒アンケート
「あてはまる」「まあまああてはまる」の割合
 A: 80%以上
 B: 70%以上
 C: 60%以上

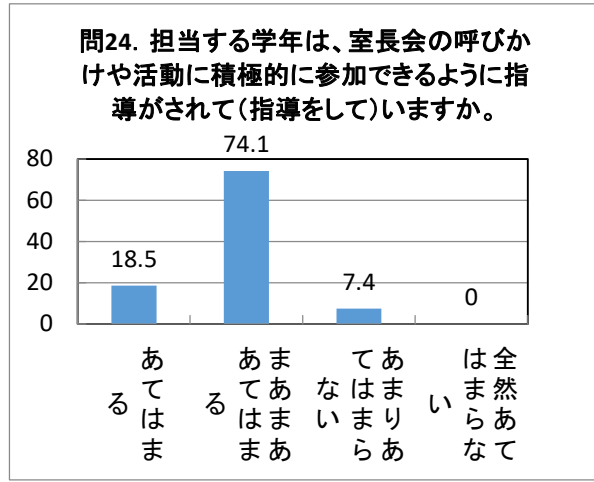
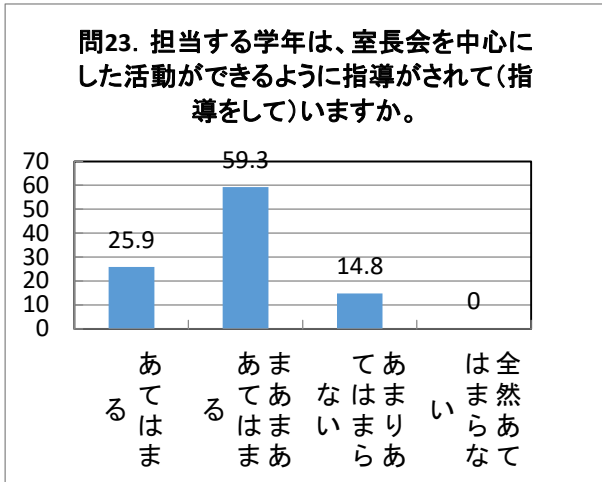
◇大会やコンクールのある部活動は目標設定と達成に向けての指導も行いやすいという面がある。アンケート結果からは、指導する教師と生徒が共通の目標に向かって活動している姿がうかがえる。一方で、ファシリテーターとしての役割を教師の側がどの程度果たしているかは見えない。後掲する地域貢献活動に名乗りを上げた部活動があったが、このことを生徒の自治活動の芽生えととらえ、部活動の役割の新たな一面として伸ばしていくような方策を講じていきたい。

<教員の「週案」の記述から>

・クラスの応援も、団長と「今日はここまで」と練習の目標を立て、ゆとりをもってやれていることは、焦って練習をするよりもよい成果が出ているかもしれない。今回、自分の中では、本番直前ではなく、**過程を大切にすることをクラスで感じること、みんなでやるおもしろさを個々が感じられることを目標**としている。Aさんが輪に入り、楽しそうに取り組む姿が印象的で、うれしく思う。あとは、B君をどのような形でも、クラスと何かつながれるようにしたいと思う。

方策4 学年目標の達成に向けて室長会を運営し、決定した諸取組を学級へと広げていく。

①教師アンケートの結果



②生徒アンケートの結果

問 23. あなたの学年は、室長会を中心にした活動がされていますか。	
あてはまる	47.5%
まあまああてはまる	37.4%
合計	84.9%

問 24. あなたは、室長会の呼びかけや活動に積極的に参加していますか。	
あてはまる	36.5%
まあまああてはまる	49.2%
合計	85.7%

教師・生徒アンケート 「あてはまる」「まあまああてはまる」の割合

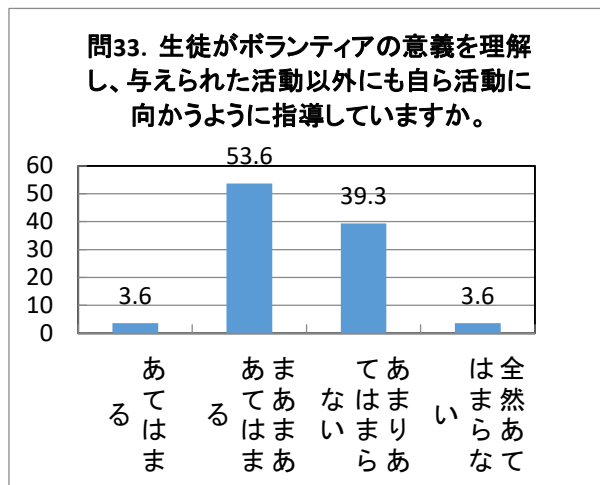
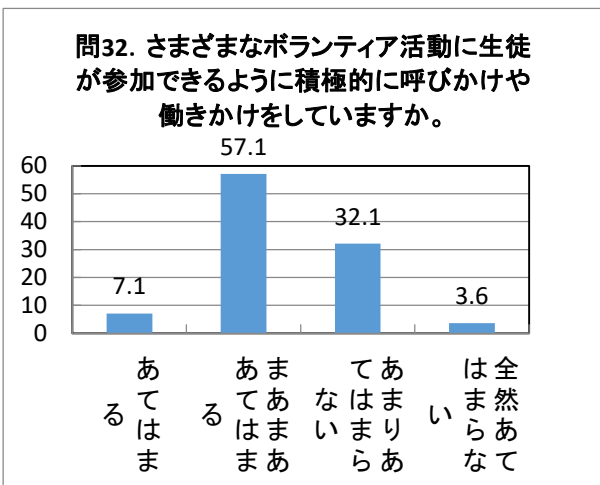
Ⓐ: 80%以上 Ⓑ: 70%以上 Ⓒ: 60%以上

◇室長会を通じて学年の目標の設定や行事のスローガンを考えたりすることが、多く見られるようになってきている。また、学年の諸活動、行事が室長によって計画・運営されることも多い。室長会に対する意識は教員、生徒ともに高いことから、取組をさらに次元の高いものに進めていきたい。2年生では、後期の始まりに合わせて、これまでの学年の様子を振り返らせ、室長会を中心に改善策を話し合うという取り組みを進めている。教師の側からの一方的な指導ではなく、生徒自身に考えさせ、行動を促すという意識を読み取ることができる。【資料3 2年生の室長会のアンケート】

○地域と協働してまちづくりに貢献することで生徒の自己有用感を高め学校と地域の連携強化を図る

方策1 美化委員会、生徒会が、外路樹ボランティア活動、防災訓練を計画運営・参画する。

①教師アンケートの結果



②生徒アンケートの結果

問 32. 様々なボランティア活動に参加しよう、参加したいという気持ちがありますか。	
あてはまる	28.8%
まあまああてはまる	37.6%
合計	66.4%

問 33. ボランティア活動に参加したことはありますか。	
あてはまる	68.5%
まあまああてはまる	14.7%
合計	83.2%

教師・生徒アンケート 「あてはまる」「まあまああてはまる」の割合

Ⓐ: 80%以上 Ⓑ: 70%以上 Ⓒ: 60%以上

○街路樹ボランティア・親子除草作業への生徒の参加状況

街路樹ボランティア (5月26日<日>実施) 参加生徒数 330名 参加率56.4%
 親子除草作業 (8月25日<日>実施) 参加生徒数 433名 参加率74.0%
 Ⓐ: 全校生徒の60%以上 Ⓑ: 50%以上 Ⓒ: 49%未満

※教師の側の指導意識の低さが顕著である。いわゆる「奉仕活動」的なボランティア以外にも生徒が日常的に関わるボランティア活動はある。「街路樹ボランティア」以外に選択できるものが少ないことも、この結果の一因ではないかと思われる。いずれにせよ、生徒にとってのボランティアの意義を教師間で再確認する必要がある。

方策2 資源回収収益金の使い道を決めるとき、地域への貢献方法を考えさせる取組を試みる。

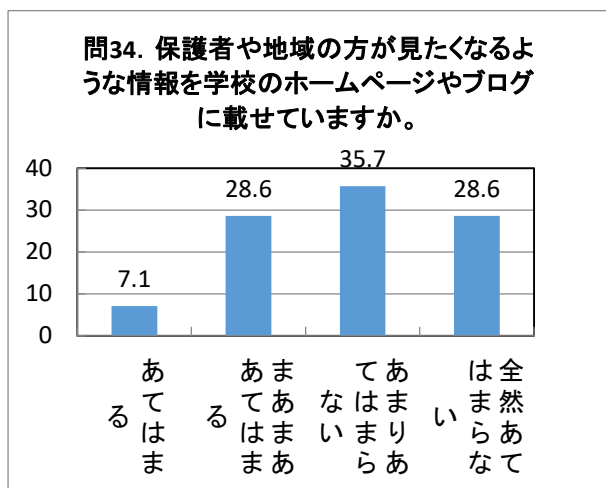
◇昨年度は、部活動単位でプレゼンを行った上で収益金の配分を決定したが、本年度は申し出制にした。その結果、9月はじめの時点で吹奏楽部、バスケットボール部男女、バレー部、ソフトテニス部女子から申し出があった。吹奏楽部は昨年同様に幼稚園をはじめとする施設への訪問演奏、バスケットボール部は小学生へのバスケットボール指導を提案してきた。これまで地域貢献活動を奉仕活動的なものにとらえてきたが、たとえば地域行事（レガッタ大会、シティマラソン等）に部活動単位で参加し、行事を盛り上げるとともに活躍する姿を見せることも含まれると考え、地域貢献活動として生徒が関与できる幅を広げた。

方策3 スマホ対策、リーダー研修会において地域と協働する機会を継続する。

◇スマホ対策については、今年度も入学説明会の折に保護者、3年生生徒を対象にした講演を予定している。本年度も南部まちづくり協議会から補助をいただき、講師を招聘する。

方策4 ホームページ、ブログ等で学校の方針、活動のねらいと生徒の様子を積極的に情報発信する。

①教師アンケートの結果



教師・生徒・保護者アンケート
「あてはまる」「まあまああてはまる」の割合
A：80%以上 B：70%以上 **C**：60%以上

②生徒アンケートの結果

問 35. 学校だよりを家の人に見せていますか。

あてはまる	58.2%
まあまああてはまる	20.6%
合計	78.8%

③保護者アンケートの結果

問 34. 学校のホームページやブログを見ていますか。

あてはまる	27.4%
まあまああてはまる	32.2%
合計	59.7%

◇ブログ閲覧者数（4月～7月）1日平均
A：1日平均200以上 B：100以上 C：100未満

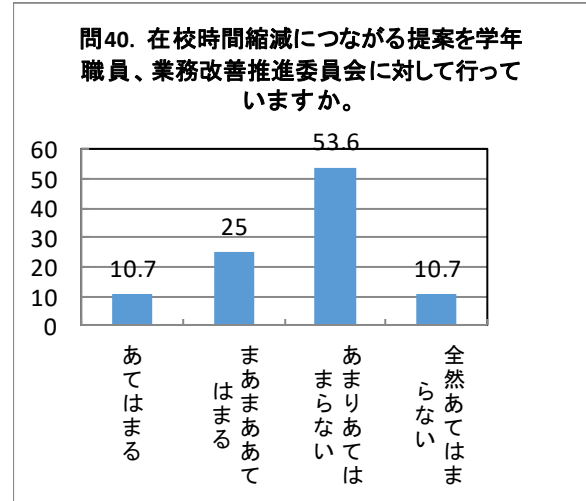
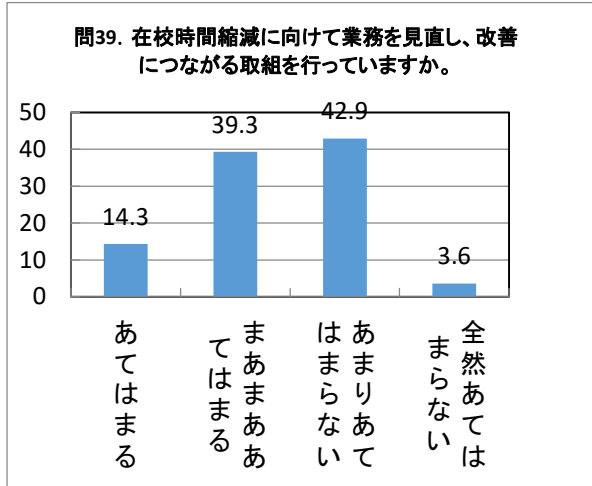
※発信者側の意識の低さが、受け手である保護者の閲覧状況の低さに結びついているといえる。今後、ホームページが一新される予定があることから、それに併せて情報発信のあり方（内容、頻度、周知方法等）を見直していく。
※生徒アンケートの結果からは、紙媒体の「たより」等は高い割合で保護者に渡っていることがわかる。媒体の特性に応じた情報の発信を考えていく必要があるといえる。

☆ 勤務時間縮減に向けた取組の推進

方策1 業務改善委員会を立ち上げ、職員自らが業務を見直し、削減、縮減の提案をする。

◇第1回の業務改善委員会を夏休み前に開催した。職員に対するアンケート結果からは、業務の見直しの意識は見られるものの、組織としての視点を持って行動するには至っていないことがわかる。まずは業務改善委員会の役割を職員に浸透させ、機能させるようにしていくことが課題である。

職員アンケートの結果



◇業務改善委員会 第1回 7月19日開催 提案数12件
 実施回数 A: 3回以上 B: 2回 C: 1回 D: 0回
 提案数 A: 20以上 B: 10以上 C: 5以上 D: 4以下

◇職員の在校時間
 4月～7月 総在校時間数 280時間 (昨年度同期間 316時間)
 昨年比 平均 (A): 10%以上減少 B: 10%未満減少

方策2 地域団体の代表者やPTA役員等を通じて地域、保護者に学校の実情を発信し、勤務時間縮減の取組について理解の促進を図るとともに、協働して取組を推進する。

◇マスコミ等の報道により教員の長時間労働が広く認知され、勤務時間縮減について地域や保護者の理解が得られやすい環境が整ってきている。昨年度よりマークシート方式を取り入れて実施した「学校関係者評価 保護者アンケート」や「PTA選挙投票」、PTA総会での要項配布をやめてのプロジェクターでの投影などについては、苦情も寄せられていない。
 部活動の朝練習の廃止後も大きな混乱もなく、新日課は定着している。